

【編集後記】

古今東西を通じて「天変地異」が歴史の歩みに大きな影響をもたらした事例にはこと欠きません。大震災や火山の噴火などの地殻変動、豪雨や干ばつといった異常気象、疫病の流行などとの絶えざる格闘が、人類の歴史のすべてとまでは言えないにしても、かなりの部分を占めていると言ってもよいのではないのでしょうか。

本年は大阪府北部や北海道での地震、過去最大級と言われる台風の影響、広島県を中心とした西日本での豪雨などがあいつぎ、各地で甚大な被害を蒙りました。過去の経験から学んで一定の対策を取っていたとはいえ、そのつど「想定外」という言葉が繰り返されてきました。

もちろん歴史学は対処療法的な施策の提供を直接の目的とするわけではありませんが、私たちがいま直面している地球環境の変動をたえず念頭に置きながら、これからも地道に歴史学の研究を続けていきたいと考えます。

本号には教員による論文二本と研究ノート一本を掲載しました。穏やかな時候の折りにでも、じっくりとご味讀ください。

(松下孝昭)

平成三〇年十一月二二日印刷
平成三〇年十一月三〇日発行

『神女大史学』第三五号

編集者 神戸女子大学史学会

代表者 吉村真美

発行所 神戸女子大学史学会

〒六五四八五五 神戸市須磨区東須磨青山二丁目

電話(〇七八)七三一四四一六(代)

印刷所 交友印刷株式会社

〒六五〇〇四七 神戸市中央区港島南町五十四

電話(〇七八)三〇三二〇〇八八